

タイトル: 膝前十字靭帯損傷の発生シナリオに基づく新たな視点での予防戦略

小笠原一生

抄録

スポーツ外傷の予防の重要性は誰もが認めるところですが、これを達成するためには、まずスポーツ外傷が起こる機序(メカニズム)を明らかにする必要があります。多くの場合、そのメカニズムは解剖学的構造をなす関節に対する力学的負担として表現されます。この力学的負担を和らげたり、あるいは回避したりすることが予防に繋がります。しかし、そのメカニズムが惹起される背景には、タイプの異なるリスク因子がいく層にも重なり、受傷に至るシナリオが存在することが見えてきました。本セミナーでは、膝前十字靭帯損傷を例とした、メカニズムとリスク因子の階層的な理解に基づく新たな視点でのリスク予測・予防戦略について議論します。

.....

小笠原一生略歴

筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科スポーツ医学専攻修了。博士(スポーツ医学)

独立行政法人産業技術総合研究所高齢者動作支援工学グループテクニカルスタッフ, 独立行政法人日本スポーツ振興センター国立スポーツ科学センター研究員, 武庫川女子大学健康・スポーツ科学部健康・スポーツ科学講師を経て、現在、大阪大学大学院医学系研究科健康スポーツ科学講座運動制御学の助教を務める。

専門領域はスポーツ医工学、アスレティックトレーニング学。

日本代表女子ハンドボールチームの情報戦略スタッフ。